



2002.7.16  
第118号

編集・発行  
福島県教育庁  
会津教育事務所  
峯島和彦  
編集協力  
沼会 両協議長  
津・麻 連協  
北地教 中  
会委 小



# 「子供の個性を伸ばす」 福島県教育庁会津教育事務所長 峯島和彦

中学校や高等学校の生徒たちが多数、町の中でたむろして地べたに座り込んでいる。集団での歩き食い、そっくりな着崩し方をした制服姿に同じような化粧顔、果ては一団となつての道路や電車内での声高なやりとり・食い散らかし等の傍若無人な振る舞いに出会って、心が痛むより前に、どうしてこういう姿になつてしまふのか考えこんでしまった。

これは、先日用事で訪れた他県のある都市で目の当りにした光景である。集団でいれば何をやっても構わない、自分たち仲間内の価値観のみが大切で、周囲の人の目を察することに思いが至らない、正に自己中心的・排他的になつてしまつてゐる。

六月、やはり大都市のある中学校教師に、卒業間もない高校一年生の保護者が、娘のことを「うちの子、最近髪を茶色に染めてルーズソックスをはいたらやっ」と落ち

着いたんです。安心したって言うています。」と報告してきたという。これも自分一人では何か違うことをしたり、周りと違う格好をしたりするには自信がない。皆と同じ格好をして没個性であることが社会で生きて行く知恵として身につけてしまつたものとすれば、何と悲しい現実であろうか。

六月、やはり大都市のある中学校教師に、卒業間もない高校一年生の保護者が、娘のことを「うちの子、最近髪を茶色に染めてルーズソックスをはいたらやっ」と落ち

別する枠組みがゆるくなつてゐる。日本ではもともと子供に対して寛容な風があったが、子供には許されるその限界が、あやふやなままに引き伸ばされて、社会の一人前としての取り扱ひも、青少年のそれに対する自覚も遅くなつてゐるという指摘がなされてゐる。自己責任が伴わない中で、「公」の場での表現の限界や恥ずかしさという意識が、「私」の場のものとはっきり区別されなま見通

きことは、子供たちに自分の個性を自覚させ、それをまねたり他と違うことを恐れたりする必要はないという自信、考え方を育成することであろう。

学校教育の大きな改革期を迎え、各学校では、実態に基づいて個性ある指導計画を作成し実施されているが、特に総合的な学習の時間（あるいは選択教科）は正に子供の個性に焦点を当てた指導の場面として最適である。まず子供が自己理解を図る手だてを組み立て、それにそつて子供たちが自己の個性に自信を持ち、他と違った学びを行うことへの肯定感や価値観が持てるような指導を行う。その上で学習課題を見つけ、適切な学習方法を選ばせるといふステップを教育課程に位置付けることが必要であろう。

「公」としての学校生活の中で、子供の個としての表現をどのよう

に認め、個性として伸ばせるのか、今後の実践開発に期待したい。

### 平成十四年度 会津教育事務所学校教育指導の重点

本年度の教育事務所「指導の重点」は、県教育委員会の「第五次福島県長期総合教育計画」に基づく重点施策や昨年度の域内の学校教育指導の成果と課題等を踏まえて設定しました。各学校におきましては、指導の重点の自校化を図り、教育活動のより一層の充実と諸課題の解決に向けての主体的な取組をお願いします。

一 基礎学力の向上

市町村教育委員会の基礎学力向上推進会議が中心となつて学力向上推進支援事業を展開する。

二 児童生徒の学力の実態把握を基に課題を明らかにし、新しい教育課程の下、一人一人に基礎学力が身に付くように学習指導の工夫と改善を図る。

三 基礎学力向上自校プランを、各学校の課題解決のための実践ポイントが焦点化・重点化されたものに改善を図るとともに、取組の成果を学校や各推進連絡協議会等相互に広め合う。

四 日常的な学習指導の充実

二 道徳教育の充実

道徳教育のかねめとしての道徳の時間には、ボランティア活動や自然体験活動などを生かした心に響く指導を工夫する。

三 生徒指導の充実

家庭・地域社会と連携し、教育活動全体を通して、生命の尊重、正義感、思いやりなどの指導を重視し、心の教育の充実を図る。

四 教職員の資質・能力の向上

各種研究指定校や幼小・中教研の研究推進を充実させ、教職員の研修を一層活発にするとともに、研究成果を普及させ、教職員の資質の向上を図る。

五 各学校の校内研修を一層充実させ、教職員個々の指導力の向上を図る。

# 管理課重点事項

学校事故・教職員の事故防止  
 につきましては、各市町村教育委員会や各学校にご指導いただいているところであります。が、今後とも事故0に向けて努力をお願いいたします。

## 一 学校事故防止

- (1) 学校災害・盗難事故の防止
  - ・空き教室・特別教室・物置等の整理整頓に努めるとともに、校舎周辺の可燃物を完全に撤去すること
  - ・集金事務は適正執行し、現金は学校に置かないこと
  - ・不法侵入や器物破損等を防ぐために、校舎の完全な施錠及び鍵の保管を適切に行い、外来者の出入りについて特に注意すること。また、地域・関係機関等の連携を

## 二

### (1) 交通安全事故防止

- ・交差点での事故や追突事故
- ・女性による事故が多く発生しているのを、「一時停止・左右確認の励行を再度確認すること
- ・帰省時、私的な旅行等では、ゆとりある運転に努め、過労運転防止に心がけること
- (2) 信用失墜行為の絶無
  - ・飲酒運転やセクハラ、体

携を一層強めること  
 ・重要書類は個人情報保護の面からも校外に持ち出さないこと

### (2) 施設設備の安全管理

- ・学校プールの管理運営については、常に細心の注意を払い事故の未然防止に努めること
- またプール薬品についても適正管理に努めること

### (2) 教職員の事故防止

- (1) 交通事故防止
  - ・教職員がメンタルヘルス
  - ・教職員が一人でも悩みを抱え込まないで何でも相談し合える職場作りを努めるとともに、早期発見早期対応に努めること
- (4) 教職員のメンタルヘルス
  - ・教職員が一人でも悩みを抱え込まないで何でも相談し合える職場作りを努めるとともに、早期発見早期対応に努めること

罰の絶無を期すため「高い倫理観と自律心を求めて」の徹底を図ること  
 (3) 職員の負傷事故の防止
 

- ・教職員の負傷事故(アキレス腱断裂等)は幸いほとんどないものの、自分の体力を過信せず、無理のない運動をすること

一人一人の教職員が種々の問題を自分のこととしてとらえ、事故防止に努めること  
 万が一、事故発生時には第一報を速やかにあげること  
 最後に補正教員(30人補正、少人数補正等)の適正な使用方に努めるようお願いいたします。

## 生涯学習だより

### 青少年の社会性や豊かな人間性を育むために

青少年の創造性や可能性を伸ばさせ、「生きる力」の育成を図るため、自然体験・交流体験を意図的・計画的に組み合わせることの重要性が叫ばれています。青少年教育では、完全学校週五日制に対応した体験活動等の整備充実及び学社連携・融合の進展のために、体験活動・ボランティア活動の推進センターを県及び地域に設置し、体験活動・ボランティア活動の情報提供やコーディネートを行うことになりました。

一 目的  
 青少年の社会性や豊かな人間性を育むため、学校内外を通じ

た奉仕活動・体験活動の機会の充実をはかることを目的に、奉仕活動・体験活動に関する推進体制を整備する

### 二 内容(県関係省略)

- ア 体験活動・ボランティア推進活動センター設置
  - イ コーディネーター配置
  - ウ 常法寺万人社会教育主事
  - エ 中村幸裕指導主事
  - オ 会津地域センター協議会
  - カ (一名程度は委員公募)
  - キ 学校と地域を結ぶコーディネーター学習会
  - ク ボランティアの人材登録
  - ク 各市町村の推進体制整備
  - ク 体験活動・ボランティア推進支援センター設置
- ※平成14年度までにすべての市町村に設置する予定

コーディネーター配置

支援センター協議会

※今年度は、高郷村に支援センターが設置されます。

③ 学校の推進体制整備

推進委員会設置

※すべての小・中学校、県立学校に推進委員会及び主任が設置されました。

この他に、ゆう・あいジョイントプラン「病院訪問学習支援ボランティア派遣事業」についても、会津教育事務所のコーディネーターが担当し、すでに業務を開始しました。

## 特色ある学校紹介

### 学社融合施設としての「西会津中学校」

町内4つの中学校が統合され、新生「西会津中学校」が4月に開校した。統合が計画されてから12年の年月を費やした。地域に開かれた施設、英語教育とIT教育を取り入れた施設、生涯学習センターとしての機能を備えた施設として、随所に最新の設備がなされた造りになっている。それらを十分に活用し、本校の教育目標である「自主・自律・敬愛・健康」の具現のため、実践に当たっている。以下、実践例を一部紹介する。

1、地域に開かれた学校  
 給食は、多目的ホールで全校生・教職員がいっしょに取る。事前に申し込めば、町民のだけれどもが、給食を試食できる。地域のお年寄りが孫と一緒に食事をする姿が見られる。地域の「一人暮らしのお年寄り」に、中学生が、夕食を宅配する計画もある。



3、生涯学習センターとしての機能  
 図書館は、1階部分が町民のため、2階部分が中学生のために作られ、土・日曜日も開館している。先日、家庭科室で会津の郷土料理「こづゆ」を町民かまぼくた、茶室では茶道を毎週定期的に習っている。コンピュータ室も町民に開放され、町民のだけれどもが中学生と共に学べる施設となっている。



2、英語教育とIT教育の充実  
 日本人の英語教師3名、ALT教師3名の計6名の英語教師が、学年一斉の時間割で全授業をTTで実施。3年卒業時まで英会話3級以上取得をめざして



# 私の実践

## 豊かな表現をめざして

金津高田町立第二中学校 教諭 吉田ひとみ

生徒たちの表現が少しでも豊かになるようにと思い、数年前から「聞き取りメモ」を活用した授業を始めました。これは、友人の考えや意見の中から自分とは異なるものや優れた表現を聞き取り、メモすることにより、次の機会に自分の表現に活用していけるようにさせたいと思っ

て続けているものです。また、単位時間ごとに考えを膨らませるのにも友人の考えを聞くことは大事だと考えています。そして、自分の考えを伝える相手を想定した文章として書き表すことよって、相手意識や目的意識が出てくるだろうと考えました。さらに、自分の考えを文章として書いたり、音声言語として発表したりする活

動を通して、自分の中で内面化させたいとも考えました。

聞くことは相手の優れた考えや表現に触れながら、自分の考えを深めることにつながります。ただじつと耳をそばだてて話に聞き入る時と、メモをとりながら聞き取る時とを上手に配列していく必要があると思います。

書くことは自分の考えと客観的に向き合うことであると考えます。そのために、自分自身の考えをはっきりと認識するのに十分な時間を確保しています。そして、書いたものを発表したり、友人たちと考えを出し合ったり、話し合ったりすることに

を活用させています。

これからも聞き取りメモの充実を図りながら、「書くこと」と「話すこと」・「聞くこと」の連携を図り、個の考えが集団の中で練り上げられ、さらに個性に返っていくような有機的な授業を構築したいと思っています。



～発表の聞き取りメモをしている様子～

# 教育相談だより

教育相談員 立川昭夫

教育相談業務の主なものは、電話相談・訪問相談・移動相談がある。前年度相談実績の概要は次のとおりである。

### (1)電話相談

電話による相談の総件数を校種別にみると、小学校35%・中学校38%・高校10%・その他17%であった。これを内容別にみると、「不登校」に対する相談が21%（うち中学校17%）以下、学校への不満・いじめ・家庭内の諸問題、が上位を占めている。

本人・父親からの相談は2件のみで、70%近くは母親からの相談であった。父親の子育てへの積極的な出番が切望される。

### (2)訪問相談

小・中学校へ訪問しての訪問相談総件数を内容別にみる

と共に緑化し、花が彩りを添えます。また、低部の湿地林のヨシやササの生い茂る所は野鳥にとって格好の営巣や棲息地でもあります。

このような赤井谷地の自然も、昭和初期の原野開拓を始め、戦後農業開発に伴う様々な人為的改革は、水のシステムを変え、その存続を危ぶませることになりました。このままでは、

と、トップは小・中学校とも「不登校」が占め、小学校41%・中学校92%・全体67%で圧倒的に多い。

不登校へのきっかけとしては、家庭の問題26%・本人自身の問題24%・病気による欠席18%・友人関係を巡る問題15%が上位にランクされている。

不登校への予防には、早期発見・早期相談・早期対応を心がけてほしい。

### (3)本年度の「移動相談」

- 金津若松市「南公民館」
  - 7月24日(水) 25日(木)
  - 8月22日(木) 23日(金)
  - 喜多方市「中央公民館」
  - 7月30日(火) 31日(水)
  - 金津坂下町「中央公民館」
  - 8月29日(木) 30日(金)
- ★相談時刻は、各会場とも十三時より十七時まで



特異な自然形態が失われてしまうことから、平成四年度から調査を実施し、湿原本来の環境条件を取り戻す方策が検討されました。これを受けて、赤井谷地の管理団体である金津若松市は、平成十三年度から、植生を回復し湿原の保護保存を図る諸策を講じ、人と自然の共生を目指すための計画的な整備を進めております。

# 地域に学ぶ

赤井谷地沼野植物群落は、猪苗代湖の北西岸近くに位置し、北方系の希有な植物相を持つことから、昭和三年に国の天然記念物に指定されました。赤井谷地の生い立ちは、磐梯山や猪苗代湖の歴史と深く関わり、噴火で塞ぎ止められた湖の水位が最高であった時

## 歴史の証人——赤井谷地——

会津若松市教育委員会

期、水没してしまいました。そして今から二万年まえに猪苗代湖が現在の水位になり、始めて地層の表面が陸化し、安定した水の供給と寒冷な気候に恵まれ泥炭を堆積させ、現在のようなドーム状の高層湿原に発達しました。ドーム状の泥炭層の形を支えているのは降水を基本とする水のシステムであり、それはまた、高層湿原特有の植物分化をも支えています。

三層以上に発達した泥炭層の上のミスゴケ群落には、二百種に及ぶ植物が生育しています。早春の荒涼とした景色は、季節



赤井谷地（西側から）

# 私の抱負

## 体験・感動そして挑戦

柳津町立西山小学校  
校長 猪股 律文



自然の息づかいを直接五感で感じ取れる西山の地に赴任して早三ヶ月。子どもたちには身近な故土の豊かさ・素晴らしさを、諸教育活動の中で直接且つ敏感に更に感性豊かに感じ取って欲しいと願っています。

また、学校が地域と共に歩み続けるには情報を収集すると同時に発信し続けることが大切です。それは、地域の様々な力を借りて、魅力あるしかも変化に富んだ教育活動になるような工夫・改善が求められます。もちろん、私たちに新たな改善へ挑戦する意気込みが必須となります。

## 初心を忘れず

高郷村立高郷第三小学校  
教頭 渡部 龍二



「教頭先生、鶏が卵産んだよ。」職員室の窓越しに子供が声を掛けてくれます。最近ようやく教頭先生と呼ばれることに少し慣れてきたように思えます。

新任教頭として本校に赴任して早三ヶ月、改めて自分の姿を振り返ってみました。子供や職員を大切にしていたか、来校者に対して礼儀を尽くしていたか、常に誠意ある言動であったか等々。日々の仕事に追われ、反省する点も多くあります。これからも常に初心を忘れず、信頼される教頭に少しでも近づけるよう、研鑽に努めていきたいと思えます。

## 子どもと共に

会津若松市立鶴城小学校  
教諭 小林 歩



教諭という立場になって二ヶ月が過ぎた。講師として数年教職に携わってきたが、今までと違うことは、現在担任している子供たちをもっとよく理解したいという意識が強くなったことである。それは、子供たちへの責任の重さをこれまで以上に感じるようになったからだと思う。

子どもの何気ないつぶやきに意識して耳を傾けるだけでなく、その表情やふるまひもよく観察し、一人一人を理解できるようにすることで、そのよさをひき出したいと思う。今後とも諸先生方のアドバイスを得ながら努力していきたい。

## 心に残る人々

「少年易老学難成」  
磐梯町教育委員会教育長 小川 英毅



中学時代の国語の先生で、明るい笑顔の似合う先生だった。いろいろな

なことを学んだが、中でも、一年生の時に、「少年易老学難成一寸光陰不可軽 未覚池塘春草夢 階前梧葉已秋声」を懸命に暗唱した。それ以来、「少年易老・

一寸光陰・・・」を心がけていたが、・・・。

また、漢字の読み書きの豆テストがあり、確か、九割の正解で合格。「合格できなかった者は、ペナルティーがある。勉強には体力も必要だから」とか言って、ペナルティーは校庭を二周。でも、当時は、妙に説得力があった。私も不合格となった。「次は、校庭で

会いたくないよ」と、先生はここにこしながら言われた。走り終えた生徒一人一人に声をかけていました。私は先生の笑顔に、すっきりした気持ちで再挑戦できた。先生は、絵や書が得意で、時々、写生に同行した。転任の見送りは、涙が止まらなかつた。今でも帰省した折には、訪問させてもらっている。この話をしたら、「そんなこともあったかな」と、あの時の笑顔でした。

## 田植えをしたよ

猪苗代町立吾妻小学校  
四年 渡邊 晴香



〈指導の工夫〉  
日常生活の中で見つけた子どもならではの発見や感動を相手に伝わるように色や形、配列などを工夫して表現できるようにさせた。  
生まれて初めて田植えの手伝いをした晴香さんは、そのときの感動を自分なりの方法で絵に表すことができた。  
指導者 渡邊 美智子

## 作品と指導

工作  
もぐらとおさんぼ  
金山町立横田小学校  
二年 渡部 まき



〈指導の工夫〉  
今まで、偶然にできた形から作りたい物を思いついたり、何かの形に見立てたりする楽しさを味わえるような機会を図工の時間に多く取り入れてきた。工作が大好きなまきちゃんは、材料を自由に使って作品を仕上げた。「まきともぐらのお散歩だよ。」作品を眺め、うれしそうにしていた。  
指導者 岩澤 菜穂子

## 習字

地球

熱塩加納村立会北中学校  
一年 遠藤 沙織里

# 地球

遠藤 沙織里

〈指導の工夫〉  
なにごとにも几帳面に取り組む姿勢が字形や筆使いにもあらわれている。右払い、左払い、曲がりなどの筆使いの練習に丁寧に取り組んでいた。曲がりのところで苦労していたが、手本を忠実に、そして、丁寧に書こうとする今の姿勢で臨んでいけば、さらによい作品ができあがると思われる。  
指導者 横田 和夫